

施工のポイント

1.作業環境の確保

保管～施工～養生まで

- 5℃以下にならないこと
- 急激な温度変化がないこと
- 水濡れ(降雨など)がないこと



床材が柔らかくなり蛇行したりシワが発生しやすくなります。エポキシ系接着剤は主剤と硬化剤を混合すると硬化しますので使用する分だけ混合してください。接着剤の**オープンタイム・張り付け可能時間は短くなる**のでスピーディに作業してください。

床材は硬くなり、下地に馴染みにくくなるので、予め施工する部屋を暖房して床材と接着剤を1日養生してください。**接着剤が硬化するまで(1～2日)施工した温度で養生**してください。また**端部処理材が硬化するまで(2～3日)踏まない**てください。

エポキシ系・ウレタン系接着剤は**5℃以下では硬化しません**ので使用を避けてください。

2.下地の確認・清掃

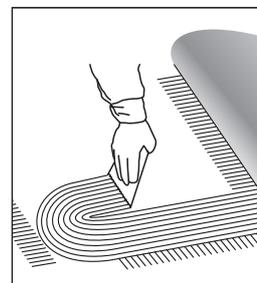
下地の水分が十分に乾燥するまで養生が必要です。必要に応じて下地の湿気をチェックしてください。



3.割り付け・仮敷き

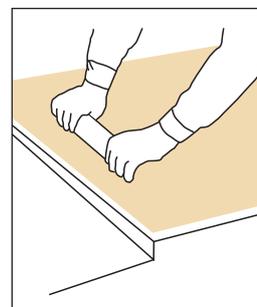
4.接着剤の塗布・オープンタイム

接着剤に添付してあるクシ目ゴテを使用して、のり溜まり、欠損部が生じないように、所定の塗布量を均一に塗布してください。**欠損部があると、施工後にフクレとして現れたり、のり溜まり部は、ガスフクレ**が生じることがあります。**接着剤の塗布量が少ない**と接着剤の乾きが早くなり、床材との接着面積が少なくなって、継目、壁際などの**剥れの原因**となります。クシ目ゴテの山が擦り減って小さくなった場合は目立てを行ったり新しいクシ目ゴテと取り替えてください。塗り床下地、金属下地の様に**表面が平滑で吸水性がない下地の場合は**、クシ目ゴテの山高さを**3/4程度**にして接着剤の塗布量を少なくするか、**オープンタイムを長く**してください。接着剤塗布後のオープンタイムは、接着剤の種類、下地の材質、塗布量や気温、湿度、風通しなどによっても左右されます。**オープンタイムを短く**して床材を張り付けると床材と接着剤との接着面積は大きくなり接着強度は高くなりますが、**ガスによるフクレが発生しやすくなります**。反対に**オープンタイムを長く**して床材を張り付けると、フクレは発生しにくく、納まりは良くなりますが期待する接着強度が得られず、**施工後に床材の剥れの原因**になります。適正なオープンタイムを取ってください。



5.張り付け・圧着

床材を張り付けた直後にしごき棒やローラーでいねいにエア抜きを行い、圧着してください。特に継目、壁際、柱周辺はハンドローラーで十分圧着させ、床材と接着剤の接着面積を広くしてください。**圧着が不足すると施工後に継目、壁際などの端部から剥れ、目地の突き上げ、床材表面にクシ目ゴテの模様が生じます**。継目、壁際、柱周辺などの裁断やローラー圧着は、床材を張り付けた直後に行ってください。裁断やローラー圧着が遅れると接着剤の乾燥や硬化が進み、接着強度が低下してフクレや剥がれの原因になります。

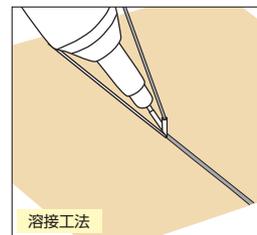


6.養生(接着剤硬化:1～2日)

接着剤が硬化して接着力を発揮するまでには通常1～2日必要です。接着剤が硬化するまでは直射日光など**急激な温度変化を与えない**てください。土足での通行をひかえ、養生シートを敷いて床材を汚さないようにしてください。特に重量物を運搬する場合は、ベニヤ板などを敷いて養生を行ってください。

7.継目処理・端部処理

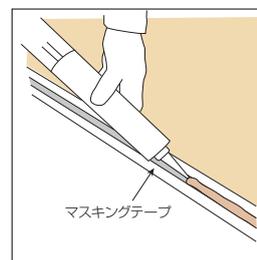
継目処理は溶接工法またはシール工法で、端部処理はシール工法で行ってください。ただし、溶接工法は接着剤硬化後に行ってください。シール工法は端部処理材が硬化するまで踏まれないよう養生してください。(2～3日以上)



溶接工法

8.養生(シール材硬化:2～3日)

シール材が硬化するまで2～3日養生させてください。シール材が硬化するまでは触ったり踏んだりしないように注意し、重量物の運搬などはシール材が硬化した後、ベニヤ板などを敷いて車輪の跡形や傷を付けないように行ってください。屋内で使用する場合は換気を行い、引き渡しまでに数日期間を設ける等の配慮をしてください。



マスキングテープ

試験データ
P.203

法規関連
P.226

工法・下地
P.236

施工手順
P.255

接着剤・
副資材
P.315

副資材
品番一覧
P.330

メンテナンス
注意
P.335

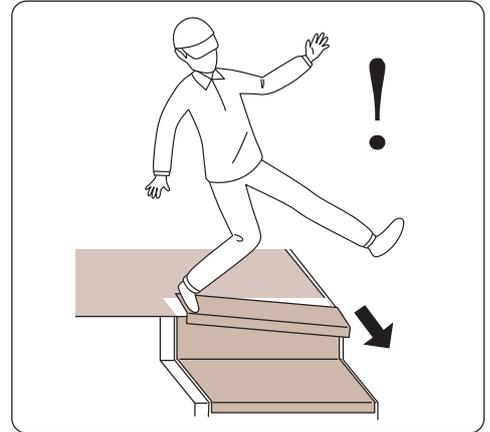
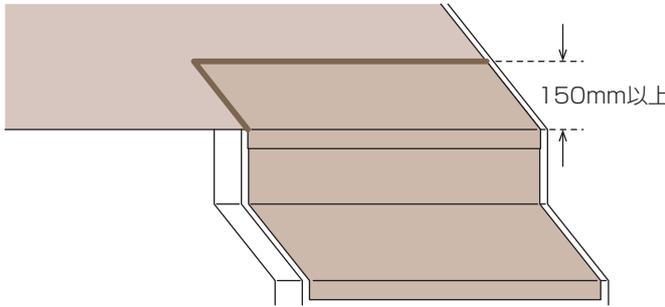


下地や床材の種類によって使用する接着剤・副資材などが異なります。別紙「工法」の表を必ずご確認ください。
 使用前保管時・施工時・養生時 ① 5℃以下にならないこと ② 急激な温度変化がないこと ③ 水濡れのないこと

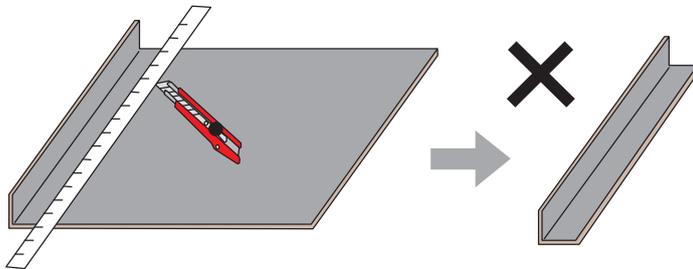
詳細な施工手順についてはタキストロン施工方法に従ってください。

1. タキステップ最上段の施工について

- 最上段のタキステップの踏み面を裁断する場合には、**奥行きは必ず150mm以上確保**してください。
- (踏み面寸法が短いと、歩行によってタキステップが脱落する恐れがあります。)



- **段鼻部のみを裁断しての施工は絶対に行わないでください。**



2. 廊下・踊り場用シートの施工

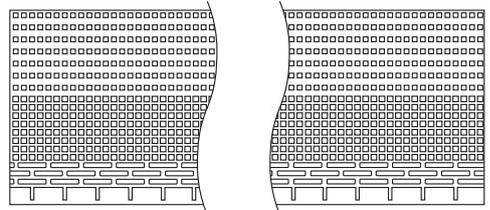
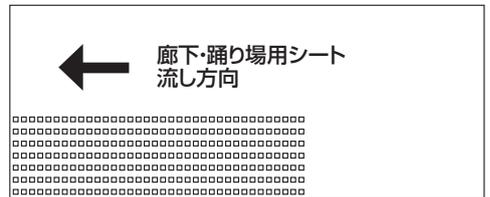
- タキストロン タフスリップタイプ施工手順に従って廊下・踊り場用シートを施工してください。

※廊下・踊り場用シートの流し方向に注意してください。

※出来るだけ継目部の柄合わせを行ってください。

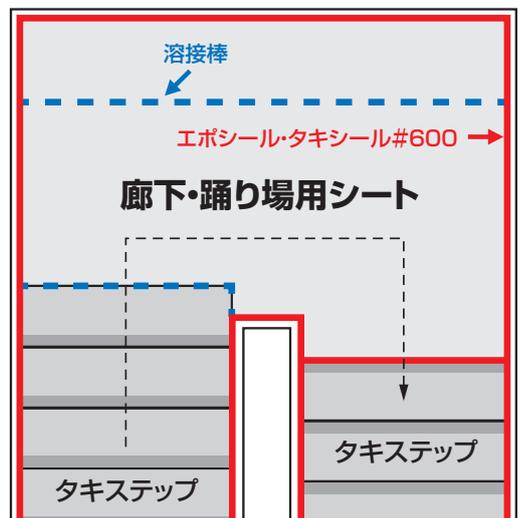
※継目は柄模様の目地部で行うのが基本です。

※廊下・踊り場用シート及び廊下・踊り場用シートとタキステップは柄合わせはできません。ご了承ください。



3. 継目処理・端部処理

- 下図のように、継目は溶接工法(溶接棒)、端部はシール工法(タキシール#600)にて処理を行ってください。
- 養生が可能な場合は、継目にタキシール#600を使用することも可能です。ただし、以下につきまして十分に注意してください。
 ※養生期間を2~3日設けてください。
 ※タキシール#600の仕上がり面は、硬化後多少の痩せが生じます。



タキストロン施工方法

マンション用

ZA・NA・RA・FH・HA・QA・BA・SA・PRE・MR・WB・LX・LB・プラスケアPGE

幼児施設用

プラスケアCG

プールサイド用

MX・MT・ST・プラスケアMG



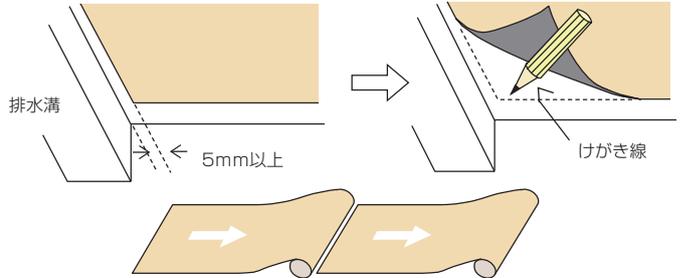
下地や床材の種類によって使用する接着剤・副資材などが異なります。別紙「工法」の表を必ずご確認ください。
 使用前保管時・施工時・養生時 ① 5℃以下にならないこと ② 急激な温度変化がないこと ③ 水濡れのないこと

1. 下地・使用環境の確認

- 下地の清掃を行い、砂・塵埃などを除去してください。
- 下地の表面が平滑で十分な強度があること、塗料や油分などの汚れが残っていないことを確認してください。
- 下地に湿気がある場合は十分に乾燥するまで養生してください。(必要に応じて下地の水分率を確認してください。)
- **施工開始から養生終了までの間に気温が5℃以下になる場合や、急激な温度変化や水濡れがある場合は施工できません。**

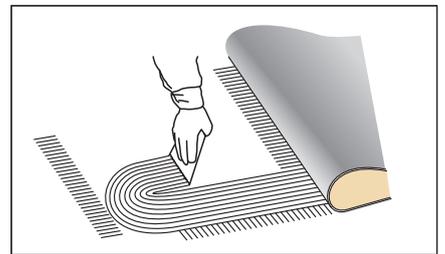
2. 割り付け

- できるだけ継目部を少なく、端部に小さなシートが入らないように割り付けてください。
- 端部は端部処理材の仕上げ代として排水溝端部から5mm以上、壁際は3mm程度の間隙を開けてください。
- 接着剤を端部まで塗布するため、シート端部の位置を下地に鉛筆などでけがいてください。



3. 仮敷き

- 張り付け基準線に沿って、仮敷きを行ってください。
- **シートには方向性があります。同一方向になるように施工してください。**
- 巻きグセを取り、シワが生じないように敷き延ばしてください。
- 柄模様のあるシートは、できるだけ柄合わせを行いながら、シートを敷いてください。
- 二枚のシートの継目部は突き付けとし、隙間が生じないように注意してください。
- 継目は柄模様の目地部で行うのが基本です。



4. 接着剤の塗布準備

- 下地に接着剤を塗布するため、タキストロンの半分(巾方向)をずれないように折り返してください。

5. 接着剤の塗布

- エポキシ系接着剤の場合、接着剤は下地上での混合は行わないで別容器で十分に攪拌してください。(下地上で混合すると混合不良となり後日のフクレ・接着不良の原因となります。)
- 下地に塗布ムラが生じないように均一に塗布してください。

標準塗布量	モルタル下地:300~400g/m ² 非吸水性下地:250~350g/m ²
-------	--

- クシ山が1/3以上摩耗した場合、三角ヤスリで目立てを行ってください。

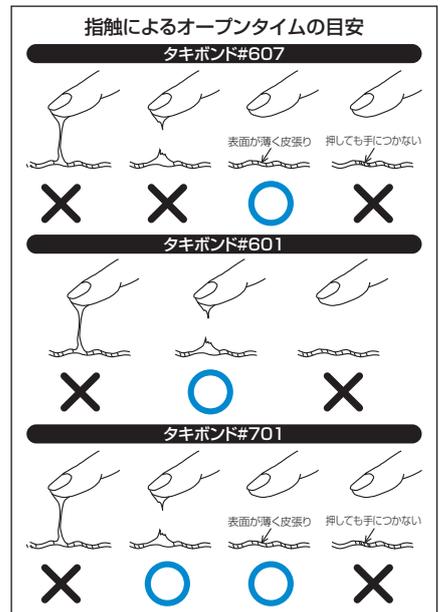
6. オープンタイム

- 接着剤を塗布した後オープンタイムを取り、張り付け可能時間内にシートを張り付けてください。
- オープンタイムが短いとガス膨れが生じます。
- **オープンタイムを取り過ぎて接着剤が乾きすぎると接着力が低下します。**

オープンタイムの目安(20℃)

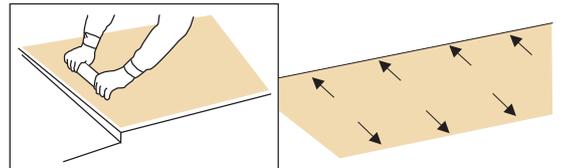
接着剤	オープンタイム	張り付け可能時間
タキボンド#607	20~30分	40~50分
タキボンド#601	30~40分	60~70分
タキボンド#701	30~40分	50~70分

※5℃以下では使用しないでください。(硬化反応が進みません)



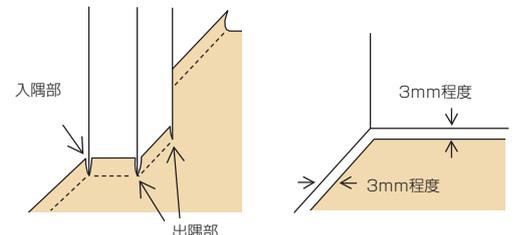
7. 張り付け・エア抜き

- シートにシワを生じさせないように、中央部から巾方向に丁寧にシートを張り付けてください。
- シート張り付け後、しごき圧着でエア抜きを十分に行った後、床ローラーや、しごき棒などで圧着してください。



8. 壁際の裁断

- 壁際は3mm程度の間隙が空くように裁断してください。
- 下地に防水層がある場合は、カッターナイフ等で傷を付けないように注意してください。



9. 圧着

- 壁際及び継目部をハンドローラーやコーナーローラーで十分に圧着してください。

試験データ
P.203

法規関連
P.226

工法・下地
P.236

施工手順
P.255

接着剤・
副資材
P.315

副資材
品番一覧
P.330

メンテナンス
注意
P.335

10.養生(1~2日)

- 接着剤が硬化するまで1~2日養生させてから、次工程の処理を行ってください。
- 接着剤が硬化するまで、気温が5℃以下にならないようにしてください。(5℃以下では硬化しないため)
また、急激な温度変化や水濡れがないようにしてください。
- 接着剤が硬化するまで、重量物の運搬やカスター椅子などによる「しごき」を避けてください。

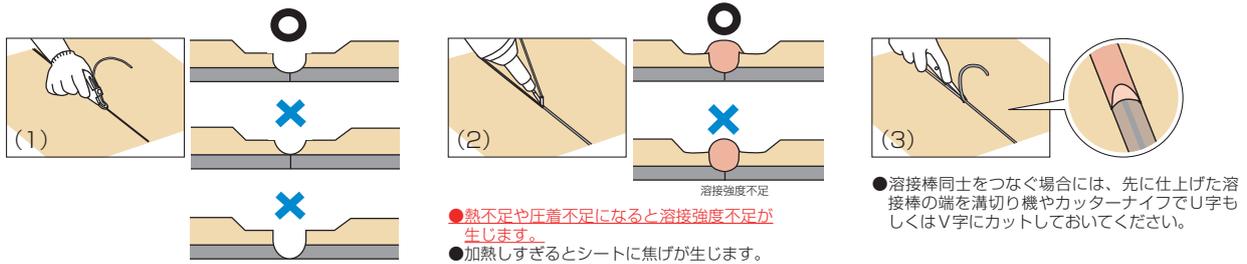
11. 継目処理

溶接工法

- (1)接着剤が完全に硬化してから溝切り機*等でシート厚みの2/3程度の深さでU字溝を設けてください。
※推奨:ヤヨイ化学販売(株)「ユーキリスーパー」
- (2)熱風溶接機(ライスター)でタキストロン床溶接棒を溶融させながら溶接ビードができる程度に溶接してください。

溶接条件の目安	設定	アナログ	6~7
			デジタル
	スピード	1~2m/分	

- (3)タキストロン床溶接棒が冷えてから余盛部を溶接棒トリマー等で平滑に仕上げてください。



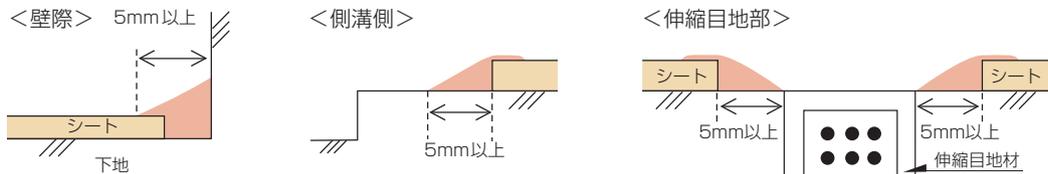
シール工法

パルコニーなどで養生が可能な場合は、11.端部処理と同様の手順でタキシール#600を使用することも可能です。但し、以下につきまして十分に注意してください。

- ※養生期間を2~3日間設けてください。
- ※タキシール#600の仕上がり面は、硬化後多少の痩せが生じます。

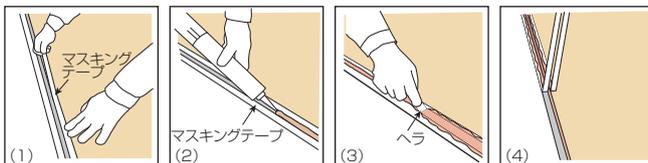
12. 端部処理

- (1)仕上がり美しくするためにマスキングテープで養生してください。
- (2)気泡を巻き込まないようにシート端部及び壁際に塗布してください。
- (3)充填後直ちに仕上げ用ヘラで平滑に仕上げてください。
- (4)ヘラ仕上げ後直ちにマスキングテープを除去してください。



※伸縮目地がある場合は目地手前で端部処理を仕上げ、目地を露出させてください。(伸縮目地上にシールを打設すると、シールにひび割れが発生する恐れがあります。)

- ※シールの仕上がり面は、硬化後多少の痩せが生じます。
- ※施工時や養生中に湿度の高い場合や、結露、水滴などにより、シール表面の光沢に差が生じることがありますが、端部処理としての機能に問題はございません。施工日が異なる場合は打継ぎ箇所を目立たない所にするなどご注意ください。
- ※エポシールは主剤、硬化剤、カラーマスターの混合が必要です。同梱の取扱説明書を参照してください。



施工副資材 標準使用量(タキストロン)

シート厚さ	タキシール#600	エポシール
3mm未満	20m/本	60m/2kgセット
3~4mm (プラスケア※)	上記の約1.2~1.5倍 13~16m/本	40~48m/2kgセット

※4mm以上の場合はお問い合わせください。

13. 清掃

- シート残材・接着剤容器・梱包紙等を片付けてください。
- カッターナイフの折れ刃の回収を徹底してください。

14. 養生(2~3日)

- シール材が硬化するまで、2~3日養生させてください。
- シール材が硬化するまで、気温が5℃以下にならないようにしてください。(5℃以下では硬化しないため)
また、急激な温度変化や水濡れがないようにしてください。
- シール材が硬化するまで、触ったり踏んだりしないようにしてください。(継目にシール材を使用する場合は特にご注意ください。)
- 養生中は土足での歩行を控え、汚さないようにしてください。(必要に応じて養生シートなどをご使用ください。)
- 屋内で使用する場合に換気を行い、引き渡しまでに数日間を設ける等の配慮をしてください。
- 重量物の運搬などは、接着剤やシール材が硬化した後、ベニヤ板などを敷いて車輪の跡形や傷を付けないように行ってください。

試験データ
P.203

法規関連
P.226

工法・下地
P.236

施工手順
P.255

接着剤・
副資材
P.315

副資材
品番一覧
P.330

メンテナンス
注意
P.335

製品別選定表 (6)

< 共通注意事項 >

- 記載内容以外の工法での施工トラブルは原因説明ができませんのでご注意ください。
- 継目処理にシールを使用する場合は養生(2~3日)させ完全に硬化するまで触ったり踏まれないようにしてください。
(硬化後の仕上がり面は多少やせが生じます)
- 下地の種類によっては本来の接着強度が発揮できない場合がありますので、営業担当者にお問い合わせください。(事前の接着テストをおすすめいたします。)
- 下地が塗膜防水材や塗り床などの場合は、種類によって副資材の選定が異なります。営業担当者にお問い合わせください。
- 鋼板製の下地については十分な防錆処理(ケレン・錆止め・上塗り)を施してください。種類によっては接着しないことがありますのでお問い合わせください。
- ステップと同梱しているタキボンド#650は凹凸の少ない標準的な下地を想定した数量を付属しています。不足する場合は別売品を追加購入してください。
- 製品を5℃以下で保管・施工・養生しないでください。(冬期などは特にご注意ください。)
- 5℃以下になると製品の品質が変化したり、接着剤やシール材の硬化不良、接着力低下、テープの粘着力低下などの不具合が起こることがあります。
- ナイスレシートの使用可否については、ナイスレシート施工手順をご覧ください。

屋内施設用 タキステップ7F・7Y →施工手順 P.303

工法	用途	下地	接着剤	シートとの継目処理剤	端部処理材 及びステップ同士の継目	段鼻隙間 充填用接着剤	プライマー
一般工法	屋内で水を使用しない場所	吸水性下地 (モルタル下地など)	タキボンド #607	床溶接棒	タキシール#600	タキボンド #650	タキボンド #625
耐水工法	屋内で大量に水は使用しないが 湿気の恐れのある場所(接地階など) または非吸水性下地(塗り床など)	吸水性下地・ 非吸水性下地	タキボンド #607	床溶接棒	タキシール#600	タキボンド #650	タキボンド #625

- 下地の種類によっては、プライマー タキボンド#625(別売品)が必要な場合があります。(#650を段鼻に接着させるため)
- 端部処理は前垂れの浮きや段鼻の破損を抑制する効果がありますので段鼻下部は必ず実施してください。
- 換気を行い、引き渡し日までに数日間設けるなどの配慮をしてください。
- ナイスレシート(NL-030)、ナイスレシート45(NF-050)との二重張りは出来ません。

屋内施設用 タキストロンGK →施工手順 P.305

タキストロンGK + ナイスレシート(NL-030)

→施工手順 P.287

工法	用途	下地	接着剤	継目処理材	端部処理材
一般工法	屋内で水を使用しない場所	吸水性下地 (モルタル下地など)	タキボンド #607・701	床溶接棒	不要
耐水工法	屋内で大量に水は使用しないが 湿気の恐れのある場所(接地階・洗面所など) または非吸水性下地(塗り床・重ね張りなど)	吸水性下地・ 非吸水性下地	タキボンド #601・607・701	床溶接棒	タキシール #600

- 換気を行い、引き渡し日までに数日間設けるなどの配慮をしてください。
- ナイスレシート45(NF-050)との二重張りは出来ません。

屋内施設用 ネオクリーン →施工手順 P.301

ネオクリーン + ナイスレシート(NL-030)

→施工手順 P.287

工法	用途	下地	接着剤	継目処理材	端部処理材
耐水工法	屋内で大量に水は使用しないが 湿気の恐れのある場所 (接地階・洗面所など) または非吸水性下地 (塗り床・重ね張りなど)	吸水性下地 非吸水性下地	タキボンド #601・607・701	床溶接棒 エポシール	エポシール タキシール#600 クリアー(CLR)
特殊耐水工法	屋内で大量に水を使用する場所	吸水性下地・ 非吸水性下地	タキボンド#601	床溶接棒 エポシール	エポシール

- 換気を行い、引き渡し日までに数日間設けるなどの配慮をしてください。
- ナイスレシート45(NF-050)との二重張りは出来ません。

屋内施設用 ネオセーフ抗菌 →施工手順 P.297

ネオセーフ抗菌 + ナイスレシート(NL-030)

→施工手順 P.287

工法	用途	下地	接着剤	継目処理材	端部処理材	グレーチング廻り
耐水工法	屋内で大量に水は使用しないが 湿気の恐れのある場所 (接地階・洗面所など) または非吸水性下地 (塗り床・重ね張りなど)	吸水性下地 非吸水性下地	タキボンド #601・607・701	床溶接棒 エポシール	エポシール タキシール#600 クリアー(CLR)	エポシール L字アングル抗菌※1
特殊耐水工法	屋内で大量に水を使用する場所	吸水性下地・ 非吸水性下地	タキボンド#601	床溶接棒 エポシール	エポシール	エポシール L字アングル抗菌※1

- 換気を行い、引き渡し日までに数日間設けるなどの配慮をしてください。
- ナイスレシート45(NF-050)との二重張りは出来ません。
- ※1 ナイスレシート(NL-030)との二重張りの場合、L字アングル抗菌は使用できません。

試験データ
P.203

法規関連
P.226

工法・下地
P.236

施工手順
P.255

接着剤・
副資材
P.315

副資材
品番一覧
P.330

メンテナンス
注意
P.335

3.接着剤

接着剤の選定は、下地の種類、下地の乾燥度、使用される用途などによっても異なります。タキストロン・タキステップ等は樹脂層が厚い為に**初期接着強度が必要**です。また、**屋外など過酷な条件下**で使用される場合には、接着剤にこれらの用途で耐える**耐久性**が要求されます。専用接着剤タキボンド以外の接着剤では、裏打材との接着力が弱く、用途に適さないタイプがありますので必ず指定の専用接着剤を使用してください。

接着剤の特長

接着剤に含まれている**溶剤・水の飛散(乾燥)によって硬化する一成分形**と、**反応して硬化する二成分形**があります。アクリル樹脂系エマルジョン形などの接着剤は耐水性が劣り、**エポキシ樹脂系・ウレタン樹脂系接着剤は耐水性に優れています**。

下地水分率が高すぎると接着剤と下地との接着不良が起こります。また、**下地からのアルカリ水**によって**接着剤の分解・再乳化**が起こり、期待する強度が得られず**継目の縮み、剥がれ、フクレ**の原因となります。

接着剤に期待する強度を発揮させるには**下地の乾燥**と用途に適した接着剤の選定が必要です。



ウレタン樹脂系一成分形 (タキボンド#607・タキボンド#701)

空気中、下地中に含まれている水分と反応して硬化する耐水性接着剤です。二成分形のように、主剤、硬化剤を混合しなくてもご使用頂けます。また梅雨期などに発生しやすい接着剤塗布面の結露に対しても優れた性能を持っています。

有機溶剤を含んでいるため引火性、有害性があり、取扱いに注意が必要です。塗床などの非吸水下地へ施工を行う場合は、溶剤の飛散が制限され、床材が膨れる可能性があるため、塗布量を少なくするか、オープンタイムを長くする必要があります。また**5℃以下では反応硬化しないため、冬期の施工では取扱いに注意が必要です**。



エポキシ樹脂系二成分形 (タキボンド#601)

主剤と硬化剤を所定の割合で混合、攪拌して使用します。所定の混合割合でなかったり、攪拌が不十分であった場合、十分な接着力を発揮しません。ほとんどの床下地に対し優れた接着力があり耐水性、耐熱性などにも優れています。

有機溶剤を含んでいるため引火性があり、またカブレが起きやすく有害性があります。取扱いには特に注意が必要です。また**5℃以下では反応硬化しないため、冬期の施工では取扱いに注意が必要です**。

試験データ
P.203

法規関連
P.226

工法・下地
P.236

施工手順
P.255

接着剤・
副資材
P.315

副資材
品番一覧
P.330

メンテナンス
注意
P.335

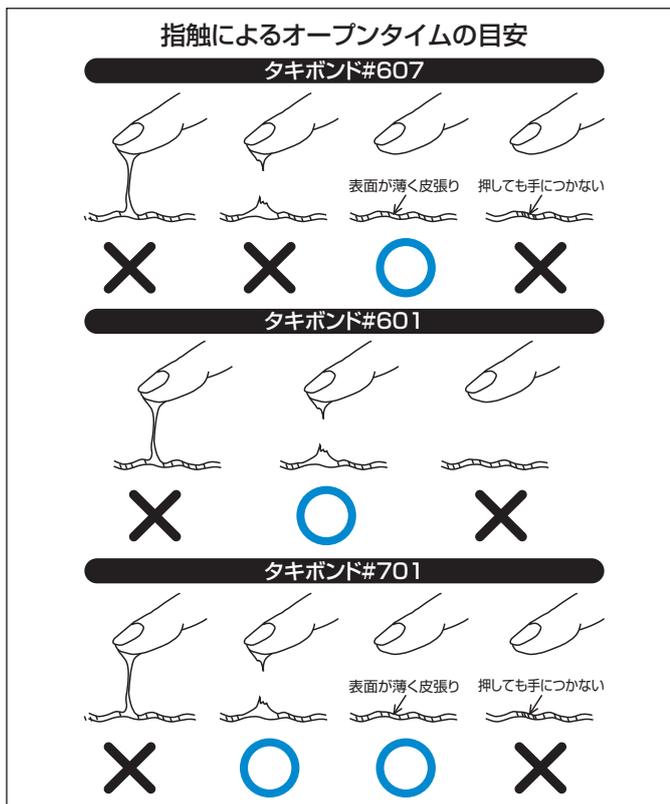
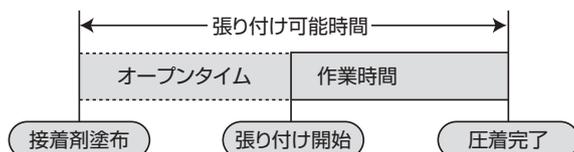
接着剤のオープンタイムと張り付け可能時間

接着剤塗布後の時間の経過とともに溶剤の飛散量は増加し、接着剤の反応も進行します。しかし、**張り付けまでの時間が長いほど、接着力は低下**します。従いまして、床材が溶剤でフクれない溶剤量になった時点がオープンタイムであり、床材の納まりに必要な最低の接着力になった時点が張り付け可能時間です。下記表のように張り付け可能時間からオープンタイムを引いた作業時間に床材を張り付けます。但し、これらの**オープンタイム、張り付け可能時間は、床材の種類、下地の材質、接着剤の塗布量、気温、湿度、風通しなどによって左右**されます。

オープンタイムの目安(20℃)

接着剤	オープンタイム	張り付け可能時間
タキボンド#607	20~30分	40~50分
タキボンド#601	30~40分	60~70分
タキボンド#701	30~40分	50~70分

※5℃以下では使用しないでください。(硬化反応が進みません)



⚠️ 注意 接着剤取扱い上の注意

接着剤に含まれている有機溶剤は危険物であり、引火性があります。また人体への健康障害防止上、次のことに注意して取扱ってください。

(I) 作業上の注意

- 接着剤、端部処理材の種類、作業環境によっては有機溶剤中毒予防規則に従った対応が必要な場合があります。
- 火気のある所では使用しないでください。
- 安全データシート(SDS)や取扱い説明書などを作業前によく読んで使用してください。

SDSはタキロンシーアイホームページ <https://www.takiron-ci.co.jp/product/support/index.php> よりダウンロードできます。(PDF形式)

(II) 保管上の注意

1 保管数量

接着剤、端部処理材等は消防法の危険物に該当するものがござります。危険物の類別により指定数量が決めてられており、指定数量以上の危険物は消防法に従った保管が必要となります。指定数量未満でも各市町村条例にて少量危険物として規定されております。

危険物指定数量

- 第4類第1石油類非水溶性液体(200ℓ)
- 第2類引火性固体(1,000kg)

2 保管場所

- 一定の場所を定め、子供の手の届かない所に保管してください。
- 直射日光・雨水を避け、換気の良い5~35℃で保管してください。
- 高温多湿を避けてください。

3 使用残の接着剤

- 密べいして保管してください。

4 廃棄

- 内容物を使い切ってから容器を破棄してください。
- 産業廃棄物の許可を得た専門業者に委託してください。

試験データ
P.203

法規関連
P.226

工法・下地
P.236

施工手順
P.255

接着剤・
副資材
P.315

副資材
品番一覧
P.330

メンテナンス
注意
P.335